

## 平成28年（2016年）8月の顕著な天候と海面水温について

- ・北日本太平洋側では前線や台風の影響で記録的な多雨となっており、根室や網走ではすでにこれまでの8月の降水量の1位の記録を上回っています。
- ・西日本では高気圧に覆われやすく、8月の気温としては2010年に次ぐ高い値で経過しており、西日本周辺海域では記録的に高い海面水温となっています。

### 1. 北日本太平洋側の多雨

北日本では、8月上旬後半以降、前線や台風の影響を繰り返し受けたことにより、太平洋側を中心に記録的な多雨となっています。北日本で繰り返し台風の影響を受けた要因として、

- ・日本の南東海上で、活発な対流活動や上空の低気圧性の渦の影響で熱帯低気圧が発生しやすい状況となったこと
- ・太平洋高気圧が平年より北東に偏って位置していることに関連して、台風が日本の東海上を北上したこと

が考えられます。今後一週間、北日本では、前線や湿った空気の影響で曇りや雨の日が多く、26日は前線の影響で大雨となるおそれがあります。

### 2. 西日本の高温と西日本周辺海域の高い海面水温

西日本の8月は、平年より気温が高く、降水量が少ない状態で経過しています。東シナ海北部、日本海南部の8月中旬の旬平均海面水温は、1982年以降で最高となりました。これらの要因として、中国東部から西日本では下降気流が強く高気圧に覆われやすかったことが影響したとみられます。下降気流が強かったこと背景としては、

- ・フィリピン付近で対流活動が活発だったこと
- ・中国北部付近で偏西風が北に蛇行したこと

が考えられます。今後一週間、西日本では、気圧の谷や湿った空気の影響で曇りや雨の日が多くなるでしょう。東シナ海北部、日本海南部の海面水温は、9月中旬まで、平年より高いか、かなり高い状態が続くことが見込まれますが、台風第10号の影響を受ける海域では、海面水温が大きく低下すると考えられます。

本件に関する問い合わせ先：

- ・大気の状態 気象庁 地球環境・海洋部 気候情報課 （代表）03-3212-8341（内線）3158
- ・海面水温の状態 気象庁 地球環境・海洋部 海洋気象情報室 （代表）03-3212-8341（内線）5166

## 1. 天候と海面水温の状況

### (1) 天候の状況 (図1)

北日本では、8月上旬後半以降、太平洋側を中心に降水量が多くなっており、8月1日～22日の北日本太平洋側の降水量は、平年の同期間の241%（8月降水量の最も多い記録は1998年の222%）となっています。

西日本では、8月上旬後半以降、平年より気温の高い状態が続いています。また、7月18日ごろ（速報値）の梅雨明け以降は、降水量の少ない状態が続いています。8月1日～22日の西日本の平均気温は、平年の同期間と比べて1.4℃高くなっています（8月平均気温平年差の第1位は2010年の+1.7℃）。8月1日～22日の西日本日本海側の降水量は平年の同期間の39%（8月降水量の最も少ない記録は1994年の平年比38%）、西日本太平洋側では平年の同期間の23%（8月降水量の最も少ない記録は1967年の平年比32%）となっています。

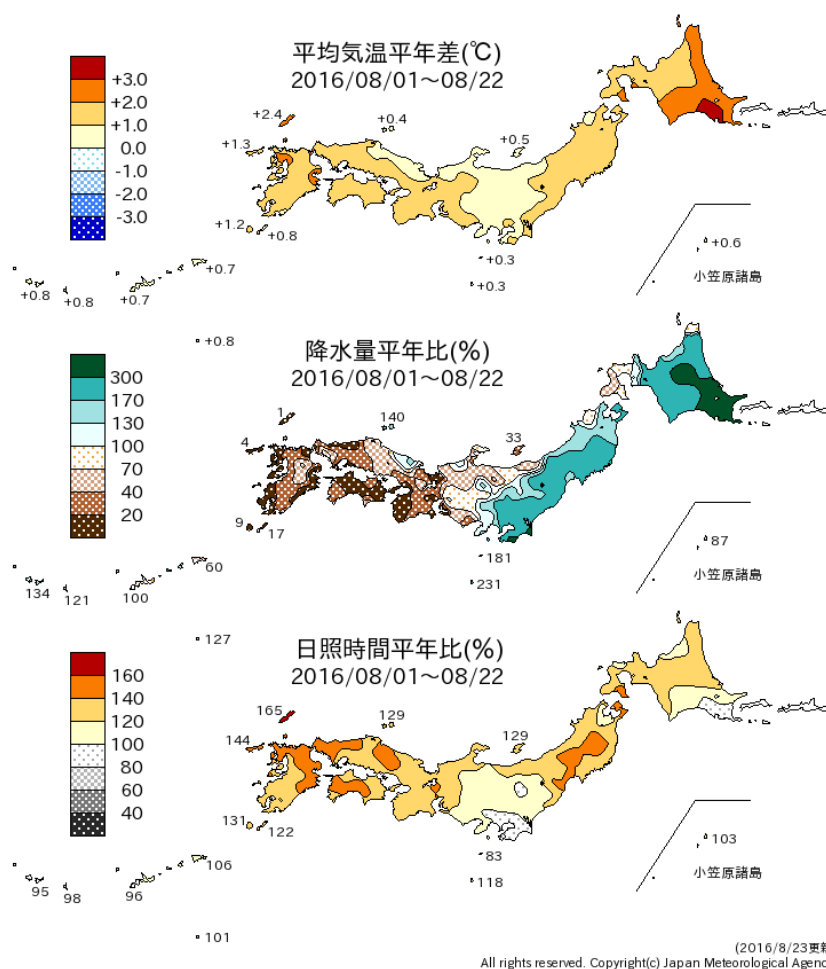


図1 2016年8月1日～22日の気温平年差、降水量・日照時間平年比の分布

平年値は1981～2010年の平均値。

## (2) 西日本周辺海域の海面水温の経過 (図2)

東シナ海北部、日本海南部では、8月上旬以降海面水温が記録的に高い状態となっています。東シナ海北部では、8月中旬以降、海面水温が31°Cを超える海域がみられます。

東シナ海北部、日本海南部の8月中旬の旬平均海面水温(\*)は、それぞれ30.6°C、28.4°C、  
 平年差は+3.0°C、+2.7°Cで、解析値のある1982年以降で年間を通して最も高い水温となりました(表1)。

\* 2016年の海面水温値は速報値です。

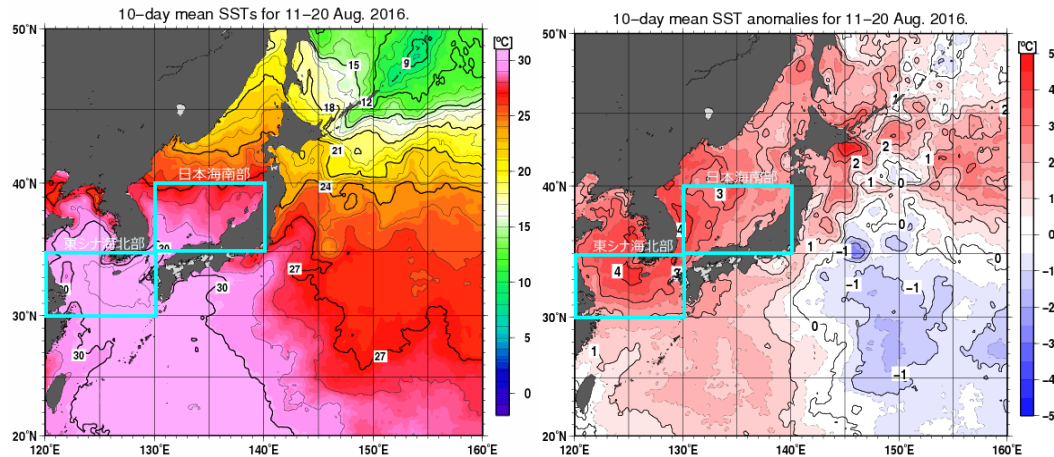


図2 日本近海の旬平均海面水温分布図と平年差分布図(2016年8月中旬)

平年差は、海面水温の平年値(1981~2010年の30年間の平均値)からの差。この図の海面水温は速報値で、後から入手した観測値によって更新されることがある。

表1 2016年8月の旬平均海面水温

	日本海南部		東シナ海北部	
	8月上旬	8月中旬	8月上旬	8月中旬
2016年の旬平均海面水温 (偏差)	27.5°C (+2.5)	<u>28.4°C</u> (+2.7)	29.5°C (+2.0)	<u>30.6°C</u> (+3.0)
これまでの 年間を通しての過去最高水温 (括弧内は発生年及び旬)	28.0°C (2013年8月中旬、1994年8月中旬)		29.4°C (2013年8月中旬)	

\*2016年の値は速報値です。下線を引いた太字は1982年以降の最高値を示しています。

## 2. 大気の流れの特徴 (図 3)

### (1) 北日本太平洋側を中心とする多雨に関連する大気の流れの特徴

フィリピン付近から日本の南東海上では、7月末頃から対流活動が活発となりました。中緯度の上空の偏西風は、カムチャツカ半島付近で大きく北に蛇行してブロッキング高気圧を形成する一方、その西側の日本付近や、東側の太平洋中部では南に蛇行して気圧の谷となりました。

日本の南東海上では、活発な対流活動に加えて、太平洋中部の気圧の谷から分離して西進した上空の低気圧性の渦に対応して、熱帯低気圧が発生しやすい状況となりました。また、偏西風の蛇行に対応して、日本の東海上の上空の風は南寄りとなり、地上付近の太平洋高気圧は、本州付近から日本の南海上で平年より弱く、平年の位置より北東に偏って位置しました。このため、日本の南東海上で発生した熱帯低気圧から発達した台風（一部を除く）は、太平洋高気圧の縁辺を回るように日本の東海上を進み、上空の南寄りの風に対応して北日本に接近、上陸しました。前線や台風の影響を繰り返し受けた北日本では、太平洋側を中心に大雨となったところがありました。

### (2) 西日本の高温と西日本周辺海域の高い海面水温に関連する大気の流れの特徴

フィリピン付近の活発な対流活動に対応して、対流圏上層（高度 12,000m 付近）では、対流活発域の中心から周辺へ向かう流れが明瞭となりました。一方、中国北部付近では、上空の偏西風が北へ蛇行してチベット高気圧が北東へ張り出しました。このチベット高気圧の張り出しと、フィリピン付近の活発な対流活動に伴う流れに対応して中国東部から西日本付近で下降流が強まったため、これらの地域では空気が圧縮されて気温が上がる効果に加え、高気圧に覆われて平年より日照時間が多くなりました。これにより、西日本では降水量が少なく気温の高い状況が持続しました。また、平年より多い日射量に加え、高気圧に覆われて海面付近の風が弱かったため、西日本周辺では海面水温が記録的に高くなりました。

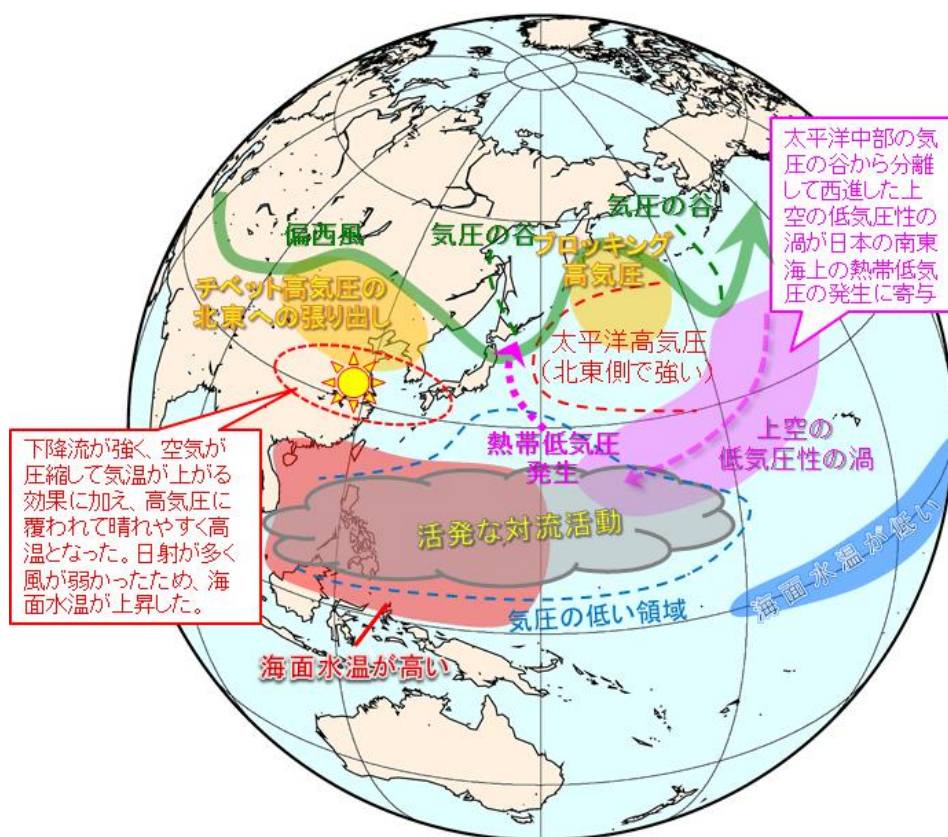


図3 2016年8月の西日本の高温、西日本周辺海域の高い海面水温、及び北日本太平洋側の多雨の要因に関連する大気の流れの模式図

### 3. 今後の見通し

#### (1) 天候の見通し

今後一週間、北日本では、前線や湿った空気の影響で曇りや雨の日が多く、26日は前線の影響で大雨となるおそれがあります。西日本は、気圧の谷や湿った空気の影響で曇りや雨の日が多くなるでしょう。

#### (2) 海面水温の見通し

東シナ海北部、日本海南部の海面水温は、9月中旬まで、平年より高いか、かなり高い状態が続くことが見込まれますが、台風第10号の影響を受ける海域では、海面水温が大きく低下すると考えられます。

なお、8月の高い海面水温について臨時診断表を公表しています。あわせてご覧ください。また、海面水温の最新の状況は、「海洋の健康診断表 日本近海の海面水温」をご覧ください。

臨時診断表「東シナ海、日本海南部などで記録的に高い海面水温」:

[http://www.data.jma.go.jp/gmd/kaiyou/shindan/rinji/2016/01/rinji\\_ec\\_hisst\\_201608.html](http://www.data.jma.go.jp/gmd/kaiyou/shindan/rinji/2016/01/rinji_ec_hisst_201608.html)

日本近海の海面水温:

[http://www.data.jma.go.jp/gmd/kaiyou/data/shindan/c\\_1/jpn\\_jun/jpn\\_sst.html](http://www.data.jma.go.jp/gmd/kaiyou/data/shindan/c_1/jpn_jun/jpn_sst.html)